

東山建仁禪寺は大和大路四条の南にあり。〔門前通四条より南を建仁寺町となづく、中の門の南より竹垣を以て塀の

代とす、是を建仁垣といふ〕五山の第三位にして、開基は千光国師葉上僧正、諱は榮西といふ、産は備中国吉備津の

人にして賀陽氏なり、薩州の刺史貞政の曾孫とぞ、建保三年七月五日寂す。〔七十五歳〕土御門院の勅願にて、征夷將軍

源頼家卿敷地を寄附し給ひ、建仁三年伽藍ことごとく造営し、勅願たるによつて年号を以て寺号となす。仏殿の本尊

は釈迦仏、脇士は迦葉阿難なり。開山塔は興禪護国院と号して東の丘にあり、榮西国師の廟塔なり。又国師宋国より帰

朝の時携給ひし菩提樹は当院にあり。〔今繁茂して数株となる〕河原院鐘は仏殿の北に二ツの鐘堂あり、東の大鐘これな

り、是融大臣六条河原に殿舎を建給ひ、後に仏閣となし河原院と号す、此処にありし鐘なり。荒廃の後鴨川七条の南の

深淵に沈む、榮西国師是を窺知りて官吏に訴乞求て当寺に掲る。此鐘かの淵を引上る時更に動ず、然るに国師のはから

ひとして、力者の音頭に榮西と唱、又国師の弟子長首座と呼んで引べしと教給ふ、力者大勢是を懸声してやすくと当

寺にうつす。〔今重き物を引に此名を呼で運送するは此所謂なり。又鴨川七条の南七町に釜が淵といふあり、此鐘の沈

ありし所なり、実は鐘が淵なり〕

又此鐘毎夜子の刻より数九十声撞なり、晨鐘には十八声なり、合て百八撞なり、昔は陀羅尼經を誦して撞きしゆゑ、此

鐘の音を称して建仁寺の陀羅尼といふ。池を法水池と号し、中門を矢立門と呼ぶ。〔平家の一門門脇教盛卿の館の門な

りといふ〕禅居庵には摩利支天を安置す、嘉曆二年唐土より将来せし靈像なり。〔応驗新にして常に詣人多し〕妙徳石

〔方丈の北にあり〕 焼香橋〔浴室の北の石橋をいふ〕 楽神廟は国師の勸請にして当山の鎮守なり。〔備中国吉備津宮の第

三神楽御前を祭るなり〕

安国寺塔〔方丈の庭にあり〕 織田有楽塔〔正伝院にあり、則有楽翁の数寄屋あり〕